鹿児島県立鹿児島中央高等学校　～自主 好学 敬愛～

進路指導室だより ３月号

発行：進路指導部企画運営係〈令和4年3月25日〉

合格発表

2022 年度入試の結果を報告します。57 期生は最後まで健闘し，数多くの生徒が栄冠を手にしました。

総合型選抜と学校推薦型選抜では，東京学芸大学，熊本大学，鹿児島大学など，23 名が合格しました。

２月 25 日(金)26 日(土)に行われた国公立大学前期日程試験の合格発表（本校生徒分）は，３月３日(木)～９日(水)にかけてありました。57 期生は，筑波大学１名，九州大学２名，広島大学４名，北九州市立大学 11 名，鹿児島大学 94 名など，140 名が合格しました。

また，３月８日(火)に行われた中期日程試験，12 日(土)に行われた後期日程試験の合格発表が，３月 20 日(日)から始まりました。現在，長崎県立大学２名，鹿児島大学 12 名など，合計で 17 名が合格し，今年度国公立大学合格者数は合計で 180 名となりました。

私立大学も，早稲田大学，明治大学，青山学院大学などの難関大学に合格しました。より高みを目指して入試に再チャレンジした卒業生からも，鹿児島大学医学部医学科，長崎大学薬学部，筑波大学体育専門学群などへの合格報告がありました。

57 期生の最終的な合格状況は，新年度発行の『進路の手引き』等で改めてお伝えする予定です。

57 期生の合格体験談

３月 16 日(水)，57 期生から後輩に向けた「合格体験を聞く会」が，パネルディスカッション形式で実施されました。東京都立大学や九州大学，そして地元の鹿児島大学等への進学が決まった先輩方が，受験の重圧から解放された今，改めて自分の生活を振り返り，飾らない生の声を聞かせてくれました。

へき地医療に特化した大学で学びたい，教師として中央高校に帰ってきたいといった，将来を見つめた志望理由を語ってくれました。生徒同士で教え合うこと，授業に集中すること，基本問題や標準問題の大切さといった，日々の学習への心構えもわかりやすい言葉で語ってくれました。最後に，受験を乗り越えた先輩として，後輩たちに様々な言葉でエールを送ってくれました。

また，新年度発行の『進路の手引き』には，より詳しい先輩方の言葉や，受験生を支えた保護者の言葉を掲載します。忙しい時間を割いて原稿を書いてくださった先輩方に感謝しつつ，先輩方からのメッセージを自分のこととし，希望進路実現に役立てましょう。

「２年生」になるために　～59 期生～

大学入学共通テストの国数英で求められる力の大半は１年次の学習内容です。受験につなげるためには，春休みの課題に取り組みながら，この１年間の学習内容に抜け落ちている点がないかを確認し，適切な振り返りをすることが必要です。特に用語や公式，単語などについては高い意識を持って定着を図りましょう。

次年度からの理科や地歴公民は，新しく学ぶ内容ばかりです。後回しにせず，その日その日に振り返る習慣を意識して身に付けましょう。

なお，入試問題のうち約 50%が基本問題，約 30%が応用問題，約 20%が難問と言われています。受験の合否を分けるのは難問よりも基本問題です。２年後を見据えて，早い段階で「圧倒的な基礎力」を身につけましょう。

「受験生」になるために　～58 期生～

57 期生を担任し，受験生の成長を見守った先生方の声を，受験イヤーに突入した 58 期生に紹介します。

A先生：日々の積み重ねを大切に

日頃の授業の予習・復習をはじめ，宿題等の課題にこつこつ取り組んだ人が，志望校に余裕を持って合格することができました。「継続は力なり」です。

B先生：なりたい自分を想像する

判定だけ見て「自分はもうダメだ」と考える生徒が見受けられるが，本番は今日より先の話。今，何をすべきか，冷静に自分を見つめて，基礎基本の土台固めをしっかり行う。難問ばかり解いても真の実力は身に付かない。

C先生：最後まで諦めない気持ち

共通テストの平均点が下がったため，今回の入試は２次力の勝負になったと思います。たとえ判定が良くなくても，最後まで諦めずに努力した生徒の多くが合格を果たしています。

ポイントをまとめると，「継続する」「基礎基本を固める」「諦めない」ということになります。

ところで，共通テストが読解力や思考力を問うものであることは言うまでもありません。59 期生への言葉と重なりますが，「基礎力」の定着を最優先で確認してください。問題を速く正確に読解し，持っている知識をスムーズに引き出し，思考する時間を確保する意識を高めてください。できればそれが，「頑張ってする」のではなく，「自然にできる」ようになってください。

「合格体験を聞く会」に思う

１学年主任久保公人

１年前・・・

皆さんが鹿児島中央高校へ合格した日の事を覚えていますか。

受検が終わった開放感と，新しい環境への希望と不安と，様々な思いが入り交じっていたのではないかと思います。そして，「鹿児島中央で頑張ろう。」と心に決めて入学してきたのだと思います。

鹿児島中央高校の秘密

鹿児島中央高校は，鹿児島県でも有数の進学校です。毎年，多くの生徒が大学や短大へ進学していきます。ではなぜ鹿児島中央高校は優れた進学実績を残すことができるのでしょうか。鹿児島中央高校で３年間過ごせば，自動的に大学へ行けるのでしょうか。

そんな訳ないことは，皆さんが一番よく知っているはずです。鹿児島中央高校にいるだけで進路が決まるのなら「苦労」しませんよね。さあこれで鹿児島中央高校の秘密が分かりましたね。そうです，鹿児島中央高校生は「苦労」しているから進路が決まっているのです。

なぜ皆さんは進学校を選んだのでしょう？

進学校を選ぶ理由，これも答えはシンプルです。答えは「進学したいから」です。

進学校には課外があります。２年生になると文系理系に分かれて，授業も難しくなります。宿題も多く出ます。幾度となく挫けそうになります。いや，挫けます。「なぜこんなに苦労しなきゃいけないんだろう」と度々思います。

私たちは日々の忙しい生活に追われると，最初の目標を忘れがちになり，目の前の苦しいことに文句を言いたくなります。２年生になるのを前にもう一度，思い出してください。なぜ皆さんは進学校である鹿児島中央高校を選んだのですか？「進学したいから」つまり「苦労するため」に鹿児島中央高校を選んだのです。

映画やアニメの主人公が，日々遊んでいて，敵も現れず，挫折もせず，何のトラブルも起きない，何も達成しない。そんなヒーロー見たくないし，つまらないストーリーですよね。皆さんの人生をそんなつまらない物語にしてはいけません。どんどん苦労してください，どんどん挫折してください，そして大きな夢を手にしましょう。

先輩たちの話す「あたりまえ」

合格体験を聞く会で先輩方が口を揃えたように話した内容を覚えていますか？「授業を大切にしてください。」，「小テストは覚えるだけではいけません。」，「家での学習習慣を付けましょう。」，「早く目標を立てましょう。」，「部活動と両立しましょう。」，「分からないときは友達と教えあいましょう。」，「先生を頼りましょう。」等々，大学に合格するための秘訣として本当にあたりまえの事を話してくださいました。「あたりまえ」がどれほど大きな効果があるか，そして「あたりまえ」がどれほど大変なことかがわかると思います。皆さん，鹿児島中央高校生として「あたりまえ」を目指しましょう。そして，「あたりまえ」に苦労しましょう。最後には皆さんが目指す未来が「あたりまえ」に見えてくるはずです。

今、大切なこと

３学年主任　小畑　是也

私はみなさんとは学年は違いますが，２学年主任の磯部先生の依頼を受けてこの原稿を書いているところです。先日，国公立大学前期の合格発表が終了しました。前期合格発表終了時点の数字ですが，今現在 163 名の 57 期生が国公立大学に合格しています。その中には共通テスト直後の判定でD判定やE判定だった生徒 17 人も含まれています。「この共通テストの結果では，正直合格は難しいだろうな…」と思っていた生徒が，２次試験に向けて死に物狂いで勉強し逆転合格していく姿を見ると，「鹿児島中央生の底力は凄いものがあるなあ」とあらためて感じます。

私は生徒に「このままでは志望校に落ちる。本気で勉強しないといけないと最初に思ったのはいつ頃だった？」とよく質問します。大半の生徒は２年生の９月までに１回は「このままではヤバイ」と感じていたみたいです。中には１年生の秋頃に「このままでは志望校に合格できない」と感じていた生徒もいました。しかし，そう思っていても，いざ本気で受験勉強をスタートできるかどうかは別です。そこにはタイムラグがあります。57 期生が「ようやく本気で勉強を始めたかな」と私が最初に強く感じたのは１年くらい前のことでした。学年末考査が行われている日の午後のことです。その日の午後は教室に残って勉強していた生徒が 70 人弱いました。これまでは私語をしている生徒が必ず何人かいて，「おい，静かに勉強しろよ」と声をかけて回るのが私の仕事でしたが，その日は全てのクラスの生徒が私語をすることなく黙々と一心不乱に机に向かっていたのです。水を打ったような静けさで，57 期生の学習の様子を見て初めて「恐い」と感じたことを覚えています。さらにその直後の春休み，ちょっとした学習会を校内で開きました。黙学で１日自習するという趣旨に賛同した 21 人の新３年生が自らの意思で学習会に集まりました。この学習会に参加した生徒の志望校の判定を見てみると，当時ほぼ全員がC～E判定でした。そこに集った 21 人の生徒は「このままでは，まずい。本気で勉強しないといけない」と思ったのだと思います。その子たちの自習の様子を私は毎日見に行きましたが，教室にはピーンと張り詰めた空気が常にありました。そして，その姿に「凄み」を感じました。

私は２つの種類の勉強があると思っています。それは「ほんまものの勉強」か「まがいものの勉強」かです。「ほんまものの勉強」と「まがいものの勉強」は机に向かっているその姿を見るとすぐにわかります。その違いは「凄み」があるかないかです。部活でもそうなのでしょう。「ほんまものの練習」をしているのか，それとも「まがいものの練習」しかしていないのか。前者は気持ちが全身に乗り移り，見ている人を「恐い」という気持ちにさせます。しかし，後者には「凄み」を全く感じません。

さて，春休みの学習会に参加した先程の 21 人の後日談ですが，７月の三者面談の時点では相変わらず厳しい判定が続いていました。しかし，その後，秋から冬にかけ地道に学力を伸ばし，最終的に 21 人の中の３分の２くらいの生徒たちが志望校に合格していきました。１年の時を経て，あの凄みのある学習がようやく実を結んだのです。

58 期生のみなさんに尋ねます。今のみなさんの勉強は「ほんまもの」ですか？　それとも「まがいもの」ですか？　自分自身に問うてみることが大切です。特に国公立大学は，「まがいものの勉強」を漫然としているだけで合格できるほど甘くはありません。57 期生も前期で何人もの生徒が合格通知を手にできずに涙を流しました。１年前の今，本気でやり始めているかどうか。それが重要なのです。

最後に，57 期生のある生徒が，秋風が吹く頃に口にした言葉を紹介して終わります。それは，「受験勉強がだんだんと苦じゃなくなりました。楽しくなってきました。」という言葉です。私が今まで見てきた生徒で，秋頃にこの言葉を本心から口にできる生徒は，高い確率で志望校に合格しています。ほんまもの努力はやがて見える世界を大きく変えていくものなのです。